

1 基本理念

～スポーツの力でさっぽろの「未来」をつくる～
スポーツ元気都市さっぽろ

札幌は、人口190万人を超える大都市でありながら、郊外には豊かな自然があり、様々なスポーツに親しむことができます。特に、冬季には降雪量が6m近くになり、ウインタースポーツも楽しむことができます。これら世界的に見ても希少な札幌ならではの環境をいかし、我が国初の冬季オリンピックを開催するなど、様々な国際大会を誘致し、スポーツを通じたシティプロモート^{※7}や国際交流に力を入れてきました。現在では、複数のプロスポーツチームの本拠地にもなっており、スポーツを通じて札幌市民としての誇りや一体感も生まれてきています。

スポーツには、「する」ことによる楽しさ、喜びだけでなく、心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、健康寿命^{※1}の延伸など様々な効果があると言われてしています。

また、「する」だけでなく、「みる」ことや「ささえる」ことでも、スポーツの価値を享受することができます。スポーツに関わる市民の誰もが、スポーツの力によって、人生を楽しく元気に、健康で生き生きとしたものにすることができます。

平成27年(2015年)9月に国際連合で採択された「持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)^{※27}」の達成に向けても、スポーツは重要かつ強力なツールとして、その役割を期待されており、スポーツの持つ、人々を集める力や人々を巻き込む力などによって貢献していくことが求められています。

また、国が平成29年(2017年)3月に策定した第2期スポーツ基本計画では、全ての人々がスポーツの力で輝き、活力ある社会と絆の強い世界を創るという「一億総スポーツ社会」の実現を目指すこととしています。

札幌市でも、ラグビーワールドカップ2019TMや東京2020オリンピック・サッカー競技の開催、冬季オリンピック・パラリンピック競技大会の招致に向けた取組などにより、市民のスポーツへの関心はこれまで以上に高まることが予想されます。

これらの状況を踏まえ、札幌市においては、今後、より一層、市民誰もがスポーツに多様な形で関わることができる環境を整えていくとともに、スポーツ基本法の理念を踏まえ、市民自治の推進や活力と創造力あふれるまちづくりのために、スポーツの力で、人々がつながり、スポーツの価値を共有することで、人々の意識や行動を変えていくことなどを通じて、「さっぽろ」の発展に寄与することが求められています。

このようにスポーツの力や価値が重要性を増していると考えられる今、引き続き、スポーツの持つ力によって、札幌の未来を創り、札幌市スポーツ推進計画の基本理念である「スポーツ元気都市さっぽろ」の実現を目指します。

※1 【健康寿命】…健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間のこと。平均寿命との差が短いほど、個人の生活の質が高く保たれているとされている

※7 【シティプロモート】…まちの魅力を再発見し、創造することで新しい都市の輝きをつくり出すとともに、市民が誇りをもってその魅力を内外に発信することで、世界の人々と多様な関係をつくり出すための一連の活動

※27 【持続可能な開発目標(SDGs)】…2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための17の目標(ゴール)と169の取組(ターゲット)から構成されている。

2 3つの目標

本計画の基本理念である「スポーツ元気都市さっぽろ」を実現するため、次の3つの目標を定めます。

目標1 スポーツの力で「市民」がかがやく

市民が地域で「する」「みる」「ささえる」といった様々な形でスポーツに関わり、心身の健康増進、生きがいに満ちた生き方を目指します

スポーツ元気都市さっぽろを実現するためには、市民自らが積極的にスポーツに関わり、親しむことが必要不可欠です。また、スポーツは、その推進を通じて、地域における全ての世代の人々の交流が促進され、かつ、地域間交流の基盤が形成されるものとなるような価値を持つものであるべきです。

スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは全ての人の権利であり、市民が年齢や体力、経験、目的の違いに応じて主体的にスポーツ活動を行うことができるように、行政をはじめとする様々な団体が協働しながら、ソフト面、ハード面における必要な措置を講じていきます。

本計画の目標1では、市民の誰もが生涯にわたって、スポーツの力で、心身の健康増進や生きがいに満ちた生き方を実現できる社会を目指します。

目標2 スポーツの力で「さっぽろ」をかえる

スポーツの力によって、社会の課題を解決したり、まちを活性化させたりすることで、より活力ある「さっぽろ」を目指します

スポーツは誰もが参加できるものであり、スポーツを通じて人々がつながり、スポーツの価値を共有することで、人々の意識や行動が変わり、社会の課題解決につながるなど、「さっぽろ」を変えていく力となります。また、スポーツは多くの人々を集めることができる魅力的な資源でもあり、「さっぽろ」の観光振興や国際交流などの様々な分野においてもいかすことができます。

目標2では、スポーツが「さっぽろ」にもたらすそれらの効果に着目し、障がいの有無や年齢、国籍等を問わず、相互に人格と個性を尊重し支えあい、人々の多様な在り方を認め合う精神を育むことで共生社会^{※3}の実現を目指すとともに、スポーツと観光を融合したスポーツツーリズム^{※8}の推進など、新たな付加価値を生み出すことで、経済や地域の活性化を目指します。

※3 【共生社会】…誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会である

※8 【スポーツツーリズム】…スポーツを「観る」「する」ための旅行そのものや周辺地域観光に加え、スポーツを「支える」人々との交流、あるいは生涯スポーツの観点からビジネスなどの多目的での旅行者に対し、旅行先の地域でも主体的にスポーツに親しむことのできる環境の整備、そしてMICE推進の要となる国際競技大会の招致・開催、合宿の招致も包含した、複合的でこれまでにない「豊かな旅行スタイルの創造」を目指すものである

目標3 スポーツの力で「世界」へつながる

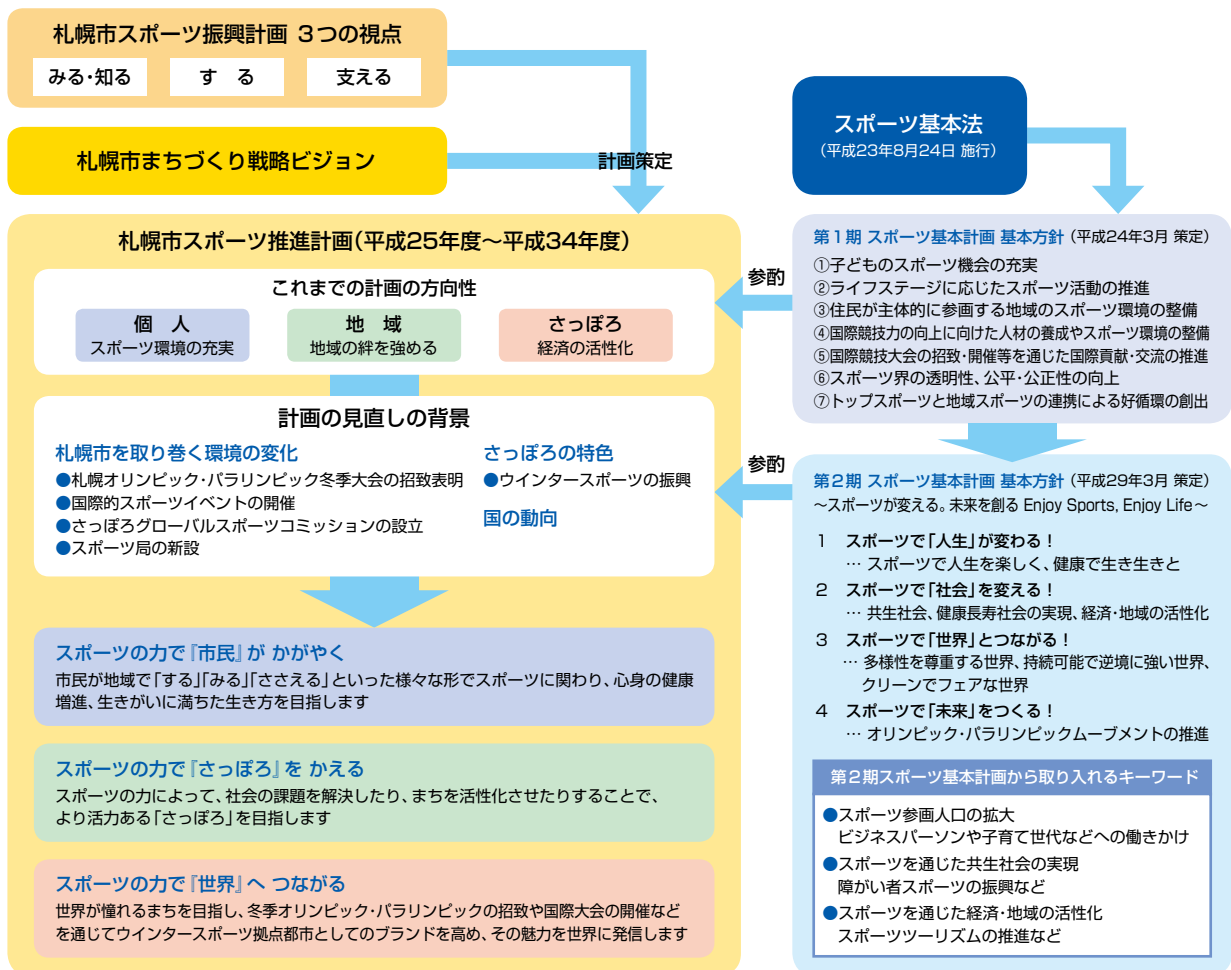
世界が憧れるまちを目指し、冬季オリンピック・パラリンピックの招致や、国際大会の開催などを通じてウインタースポーツ拠点都市としてのブランドを高め、その魅力を発信し、世界につながることを目指します。

昭和47年(1972年)に札幌市でオリンピックを開催してから40年余りが経過し、これまでに様々なウインタースポーツの国際大会を開催してきました。平成29年(2017年)2月に開催した冬季アジア札幌大会では、先のオリンピックで建築された施設をレガシー^{※6}として活用しながら、大会の運営能力を含めて札幌市をアピールしました。

現在、札幌市では2度目となる冬季オリンピック、初めてとなるパラリンピックの招致に向けた取組が進められています。招致から開催までの取組はまちづくりそのものであり、これを成し遂げることで、成熟した都市として都市ブランドとシビックプライド^{※26}を醸成します。

目標3では、これらの取組を通じて、札幌らしいウインタースポーツに親しむ文化を一層浸透させるとともに、世界都市・札幌の魅力を創造、発信し、世界につながることを目指します。

図表23 札幌市スポーツ推進計画改定版の方向性



※6 【レガシー】…オリンピック・パラリンピック開催等を契機として社会に生み出される持続的な効果

※26 【シビックプライド】…市民が、都市を構成する一員であることを自覚し、誇りや愛着をもって、都市をより良くしようとする当事者意識

3 成果指標と目標数値

「スポーツ元気都市さっぽろ」の実現のため、具体的な成果指標を設定し、その目標数値を定めています。

なお、今回の改定では、成果指標も見直しを行い、新たに「障がい者のスポーツ実施率」、「直接スポーツ観戦率」、「ウインタースポーツ目的の来札外国人観光客数」を取り入れています。

成果指標		基準値	現状値	目標値
		平成24年度 (2012年度)	平成29年度 (2017年度)	2022年度
①スポーツ実施率	20歳以上 週1回以上 *1	41.2%	56.4%	65.0%
	障がい者 20歳以上 週1回以上 *2	—	43.7%	50.0%
②ウインタースポーツ実施率 (18歳～49歳・年1回以上) *3		—	20.1%	25.0%
③直接スポーツ観戦率 (18歳以上・年1回以上)*4		—	43.6%	50.0%
④ウインタースポーツ目的の 来札外国人観光客数(1月～3月) *5		—	175,000人	250,000人

*1 札幌市が実施する「指標達成度調査(事業の効果に関する市民意識調査)」において、無作為抽出した市内在住18歳以上の男女4,000人を対象に調査票を発送し、過去1年以内のスポーツ(運動)の実施状況をお聞きしています。スポーツには、競技スポーツだけではなく、健康づくりのための散歩やジョギングなどの軽い運動、身体を動かすレクリエーション活動なども含まれます。なお、スポーツ実施率を算出する際には、18歳と19歳の回答者を除いています。

*2 今後強化していく障がい者スポーツの指標として新たに設定しました。札幌市が実施する「障がい者の運動などの活動に関するアンケート調査」において、無作為抽出した市内在住18歳以上の身体障害者手帳又は療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方1,000人を対象に調査票を発送し、過去1年以内のスポーツ(運動)の実施状況をお聞きしています。*1と同じく、スポーツには、健康づくりのための運動やレクリエーション活動も含まれます。なお、スポーツ実施率を算出する際には、18歳と19歳の回答者を除いています。

*3 「ウインタースポーツ文化の継承」という視点に重きを置き、調査対象年齢を、これまでの成人すべてから、30歳代までの若い世代と小学生の子を持つ割合の高い40歳代に着目して変更しました。

*4 札幌市が実施する「指標達成度調査(事業の効果に関する市民意識調査)」において、過去1年以内に、テレビなどではなく、直接スポーツを観戦した市民の割合を算出しています。

*5 大会誘致やシティプロモート*7による経済波及効果を示す指標として新たに設定しました。札幌市が実施する「外国人個人観光客動態調査」における札幌滞在中の目的として「ウインタースポーツ・雪遊び」を選択した割合に、冬季(1月～3月)の外国人宿泊者数を乗じて算出しています。

*7 【シティプロモート】…まちの魅力を再発見し、創造することで新しい都市の輝きをつくり出すとともに、市民が誇りをもってその魅力を内外に発信することで、世界の人々と多様な関係をつくり出すための一連の活動